助産師教育

NEWS LETTER

公益社団法人
全国助産師教育協議会
Japan Society of Midwifery Education
No.90 2018. 10. 1

自然災害と助産師

全国助産師教育協議会副会長
岩手県立大学看護学部　**福　島　裕　子**

全国助産師教育協議会の会計理事を拝命し４年目を迎えます。この間日本では熊本地震や九州北部豪雨災害、大阪府北部地震など大きな自然災害が複数発生しました。そして今年も西日本豪雨災害、猛暑、大型台風、そして北海道胆振東部地震と続いています。自然の猛威にただ驚愕するばかりです。これらの災害で多くの尊い命が失われました。お亡くなりになられた方々のご冥福を心よりお祈り申し上げます。そして避難所や仮設住宅で不自由な生活を強いられていらっしゃる被災地の皆様の日常が少しでも早く戻りますよう切に願います。

「体育館の避難所生活で、お風呂に入ることができなかったら、あなたは身体の清潔や健康のためにどんな工夫をしますか？」これは私が助産学生に講義で問いかける言葉です。災害後の非日常を想像できない学生たちは、なかなか答えを出せません。

災害は平穏な日々を瞬時に奪い去り、健康問題や社会問題など様々に影響を及ぼします。特に女性は、災害時に特有のリプロダクティブ・ヘルス/ライツの問題に遭遇します。2011年の東日本大震災後、私は助産師として避難所に何度もお邪魔しました。そこで出会った女性たちは、月経不順や月経痛、外陰部の不快感や掻痒感、尿漏れなど女性特有の健康問題を抱えながらも、誰にも相談できない状況でした。「助産師ですよ、女性の身体の専門家ですよ」と声をかけると、ほっとして悩みを言葉にされました。仮設トイレを使用したくないため水を控え、膀胱炎や便秘で悩む女性もいらっしゃいました。避難所に助産師がいれば、手元にある物品を活用した清潔保持の工夫や月経痛への対処など伝える事ができると実感した経験でした。

社会科学者のHewitt（1998）は、災害は平等に個人を襲うのではなく、個人の置かれている社会的立場や属性によって、被害が顕在化・長期化すると述べています。東日本大震災でも避難所の清掃や食事の準備を女性がやらざるを得ない雰囲気でした。授乳場面をじっと見る、身体を触るなどの性被害もありました。災害時は性差による社会的不平等がクローズアップし性犯罪も起こりやすくなるのです。

国際的な人道支援のガイドライン「スフィア基準」（2011）では、ジェンダーを考慮した支援の重要性が明記されていますが、日本の避難所運営はまだ十分とはいえません。しかし、助産師が避難所にいれば、女性の声に耳を傾け、健康支援の具体的ケアを提供し、女性専用の更衣室や授乳スペースを確保する、性犯罪予防の啓発をする等、女性の視点に立った具体策を提案できます。災害時早期の避難所にこそ助産師が必要です。

助産師養成課程の災害教育は各校で様々な工夫がされています。災害時、医療現場や地域、自身の生活の場で助産師は何をすべきなのか、何ができるのか。災害の規模や種類によっても答えは一つではありません。近年の災害研究では、災害時の女性の脆弱性だけではなく、女性のレジリエンスが注目されるようになっています。女性は単に災害の被害者として脆弱で受身なのではなく、自立的・主体的に復興や防災の役割を担うことができる、という捉えです。これは女性の産む力や生きる力を信じる助産ケアの視点と同じといえます。災害時に脆弱性を有する妊産褥婦や女性への安全と健康の具体的ケアを学ぶとともに、その女性をエンパワーメントするアプローチやそのための助産師の役割を考えてもらうことも大切となります。助産師のケアが女性を復興へ向かわせる、そのような視点での災害助産教育も今後望まれることと思います。

扉…… 1
教育・活動報告 …… 2
ニュース …… 4
全助教からのお知らせ …… 5
トピック …… 7
わかばの部屋 …… 9
理事会報告 …… 10

第43回全国助産師教育協議会　全国研修会報告

関東甲信越地区担当
東都医療大学　　**岩　﨑　和　代**

第43回全国研修会は、千葉県の幕張国際研修センター（東都医療大学幕張キャンパス）において２月10日（土）、11（日）の２日間で開催いたしました。

第１日目（２/10）は助産師技術（技）の“伝承・つなぐ”で、臨地の場で助産師として長く活躍されている日本助産師会会長の山本詩子先生、助産師教育に長年携わってきた熊田美奈好先生をパネリストとしてお招きし、それぞれが考える伝承したい助産師の技、変わりうる助産師の技についてお話しいただきました。また職人の立場から、宮大工の西澤政男氏をお招きし、彦根城など歴史的建造物の修繕経験や抱える弟子などへの伝承教育の実際など、立場は違えども現場で遭遇する若者に対する思いと技の伝承や、時代の要請に対応した技の変革はいかにあるかなど、それぞれの立場や共通点などご討論いただきました。

１日目の最後は、ワークショップ「子宮頸がん検診における検査を助産師教育に取り入れるために」をテーマに、埼玉医科大学総合医療センターの長井智則先生より子宮頸がんの理解、検診結果の見方、検体採取部位・方法の違いによる検査結果への影響等のご講演をいただきました。引き続き、長井先生や大石時子先生の丁寧でわかりやすいご指導の下、和気あいあいとした雰囲気の中で検体採取法の演習を行いました。

２日目（２/11）は助産師の“キャリアを育む”で、パネリストとして臨床歴10年前後の４名の助産師を招き、それぞれが辿っている助産師の仕事、岐路・今後の設計などを語って頂き、それぞれの立場での今後についてもお話しいただきました。この４名の語りを受けて、「将来のキャリア形成につなぐ意志ある学びを実現するために」をテーマに、シンクタンク未来教育ビジョン代表　鈴木敏恵先生から教員に向けて、ポートフォリオの考え方や活用術を紹介いただきながら、“与えられた学びから意志ある学びへ”、鈴木先生の活力ある話術で、明日への前向きな気持ちが湧き上がる未来教育についてメッセージを発信いただきました。

２日目午後のシンポジウムは「助産師教育における硬膜外麻酔分娩を考える」をテーマに、助産師教育において硬膜外麻酔分娩（いわゆる「無痛分娩」）をどのように位置づけ、どのような教育を行っていくべきなのか。産婦人科医の立場から、埼玉医科大学総合医療センター麻酔科教授の照井克生先生にご講演をいただいた後に、近年増加しています硬膜外麻酔分娩の臨床経験から石川紀子先生（静岡県立大学）、アメリカでの硬膜外麻酔分娩の経験を踏まえて大石時子先生（高崎健康福祉大学大学院）、ジャーナリストの河合蘭氏から講演とご討議をいただきました。

２日間の参加者は85名でした。大半が事前参加者であり、研修会の周知が遅れたこと、この時期は大学院入試や報告回答が重なり出席できない旨が届くなど、今年度はやむを得ない状況でしたが、例年の時期が妥当という声も聞かれました。

参加者からのアンケート結果を一部紹介いたします。＜宮大工の技と助産師の技には通ずるものがたくさんあり、興味深く聞けました＞ ＜教育を行う時の初心に戻れました。大変面白かったです。とても興味・関心のあるテーマが多く、学生にも伝えていかなければならないことを学びました＞ ＜課題が明確になりました＞ ＜本研修会をCLoCMiP更新・申請の研修（教員）とし、修了証（時間数）を出して欲しい＞（同様意見複数）などのコメントをいただきました。参加者の皆様、本当にありがとうございました。

平成30年度　第9回（通算54回）
公益社団法人　全国助産師教育協議会定時社員総会報告

平成29－30年度　全国助産師教育協議会副会長
新潟青陵大学　**渡　邊　典　子**

平成30年６月９日（土）・10日（日）、第９回（通算54回）定時社員総会が、高崎健康福祉大学で行われました。概要を報告いたします。

総会には、正会員156校、総正会員数312名のうち308名の出席（本人223名、書面85名）がありました。

井村真澄会長の開会挨拶では、最初に、全国助産師教育協議会創立50周年記念誌を基に、今日に至る助産師教育の歴史を振り返り、先輩諸氏への敬意と感謝の意が述べられました。そして、助産師教育の新たなカリキュラム改正の始動、社会情勢、医療政策等を勘案し「助産師教育における将来ビジョン」をふまえた今後の課題、方向性が話されました。続いて、ご来賓の文部科学省高等教育局医学教育課看護教育専門官　杉田由加里様、厚生労働省医政局看護課看護教育係長　岡本麻美子様、厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健指導専門官　中根恵美子様よりご挨拶があり、看護系大学における助産師教育、看護行政の動向と助産師教育、母子保健政策の動向に関する話題を提供していただきました（それぞれの資料は全助協ＨＰ参照）。

総会議長には小川久貴子氏、名取初美氏が、議事録署名人には池田かよ子氏、森聖美氏が推薦され、承認されました。議長より定款30条に基づき、正会員の過半数に達しており総会が成立していることが報告され、議案の審議に入りました。

まず、渡邊典子副会長（総務担当）から平成29年度委員会活動の報告がありました。続いて東京地区島田真理恵氏（地区長総括）より平成29年度地区別活動の報告がされました。また、岩崎和代委員長より幕張国際研修センターで行われた全国研修会の報告がされました。以上の事業活動報告は、特に質疑もなく過半数をもって承認されました。さらに、福島裕子会計担当理事より平成29年度収支決算が、猿田了子監事より監査報告があり、平成29年度収支決算および監査報告は過半数をもって承認されました。

次に、渡邊副会長が平成30年度事業計画の説明・報告を行い、福島会計担当理事から平成30年度収支予算の説明・報告がありました。会員からの教員のキャリア開発および連合大学院等教育課程に関わる事業への質問に対し、井村会長より教員のキャリアラダーおよび教育課程については継続検討中である旨を説明しました。また、助産師関連団体連絡会が解散した旨の会員からの情報提供に対し、井村会長と渡邊副会長から平成30年度事業計画から削除する旨回答し、委員会計画と年度事業計画との関連性の明示の提案に対し、渡邊副会長から平成31年度の総会資料から示すこと、井村会長から平成30年度公益事業活動を全助教のＨＰに掲載する旨説明しました。会員からの寄付金納入についての質問に対し、福島会計担当理事から表記の方法について説明しました。以上をもって総会は閉会しました。

その後、神戸市看護大学大学院教授の高田昌代氏より助産師国家試験問題作成のコツとインターネット上からの登録方法を説明していただきました。１日目の最後は地区別打ち合わせが行われ、地区長選出や地区研修会の活動等が検討されました。その後の地区長打ち合わせでは、地区長の位置づけと責務、地区長会の開催、地区研修会の内容（アドバンス助産師更新要件との関連）、会計について説明し、地区長総括は北海道・東北地区の伊藤幸子氏に決定しました。

２日目は、「１年以上教育課程、大学院教育課程のモデル・コア・カリキュラム（案）」について、将来構想委員会担当理事の村上明美氏が座長となり、将来構想委員会委員長の高田昌代氏と教育検討委員会（教育推進班）委員長の北川眞理子氏より説明が行われ、これを基に教育課程別検討会で意見交換を行いました。井村会長からCLoCMiP® アドバンス助産師更新要件として「ウィメンズヘルスケア」区分の設置背景と要件について説明がありました。

全体報告会では、地区別打ち合わせ、教育課程別検討会、地区長打ち合わせの報告がされました。また、東京地区の加藤千晶氏から第44回全国研修会を平成31年２月９日（土）・10日（日）に開催予定であること、助産師教育研修研究センター運営委員会担当理事の渡邊副会長からファーストステージ研修、セカンドステージ研修の開催案内がされました。最後に、福島裕子副会長が閉会の挨拶を述べ、２日間を無事に終了することができました。内容の濃い２日間でしたが、会員の皆様のご協力に深く感謝申し上げます。

今年は理事の選挙の年となります。選挙規定に基づき選挙がスムーズに進められますこと、そして、将来ビジョンに向かっての公益事業への引き続きのご支援･ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

CLoCMiP®レベルⅢ認証制度　アドバンス助産師【教員】の更新について

全国助産師教育協議会　副会長
新潟青陵大学　　**渡　邊　典　子**

2015年に創設された助産実践能力習熟段階（CLoCMiP®）とは、日本看護協会が策定した「助産師のためのキャリアラダー」を基盤とし、そのクリニカルラダーレベルを第三者評価機関（日本助産評価機構）が認証する制度です。その目的は、①妊産褥婦や新生児に対して良質で安心な助産ケアを提供できること、②助産師が継続的に自己啓発を行い、専門的能力を高める機会にすること、③社会や組織が助産師の実践能力を客観視できることです。これまでに認証された「アドバンス助産師」は約11,000人であり、そのうち【教員】は約470人です（現在の実数とは異なる）。この認証制度は、アドバンス助産師が知識・技術を維持・向上させるために５年毎の更新制となっています。本稿では、アドバンス助産師【教員】の更新要件についてお示しします。

更新にあたっては、日本助産評価機構が示す条件（【教員】区分）をクリアすることが必要です。対象者および到達の条件等は表に示したとおりです。更新準備として以下の１、２が必要です。

１．対象者の条件の確認：更新時に助産師教育、看護師教育に携わっている助産師

２．研修の受講：必須研修とステップアップ研修、到達の条件に示されている指定研修

（１）必須研修とステップアップ研修は、日本助産評価機構によるオンデマンド研修などを活用し、必要な研修を受講してください。

（２）指定研修は、マタニティケア能力、専門的自立能力、ウィメンズヘルスケア能力の３つがあります。マタニティケア能力とウィメンズヘルスケア能力については、日本助産実践能力推進協議会５団体（日本看護協会、日本助産師会、日本助産学会、全国助産師教育協議会、日本助産評価機構）が主催する各研修を受講してください。専門的自立能力は、臨床実習指導60時間以上と５領域の研修計100時間以上を受講してください。

2013年度以降の「助産師教育ファーストステージ研修（以後FS研修）」修了者は、アドバンス助産師認証後の５年間で臨地実習指導45時間以上を実施すれば、到達の条件を全て満たします。FS研修修了者以外の方は、全助協のHP「http://www.zenjomid.org/img/2018_advance.pdf」「2018年　度アドバンス助産師〔教員〕区分更新要件の指定研修：全国助産師教育協議会の研修実施状況のご案内」と日本助産評価機構のHP「CLoCMiP®認証(助産実践評価)→申請について（更新申請）→>>> 2020年 CLoCMiP®アドバンス助産師　更新要件→２ページのアドバンス助産師〔教員〕→到達の条件」から更新要件の指定研修を確認できます。研修は、全助協主催（助産師教育研修研究センター、地区研修会、全国研修会）のものが随時追加されます。また、他団体の研修も一部認められます（詳細は全助協HP）。

全助協では、助産師教員の方がアドバンス助産師の認証ならびにスムーズな更新継続を図るため、今後も研修を充実させていく予定です。また、暫定期間の2015年、2016年にアドバンス助産師の認証を受けた方に限り【ウィメンズヘルスケア】区分を設けて更新をすることができます（詳細は「アドバンス助産師Vol.3」2018.7　p.11-14参照）。2020年の更新申請のスケジュールは、日本助産評価機構HP、あるいは「アドバンス助産師Vol.3」2018.7をご覧ください。

表　アドバンス助産師　【教員】区分の更新要件

対象の条件		更新時に助産師教育、看護師教育に携わっている助産師
更新時期		初回申請後５年の年（2015年→2020年、2016年→2021年）
到達の条件	マタニティケア能力	マタニティケア能力に関する研修　10時間以上
	専門的自立能力	１．臨地実習指導　60時間以上 （臨地実習指導実践レポートを作成する。全助協HPよりダウンロード可） ２．１）～５）の研修を合計100時間以上 １）教育および臨地実習に関する研修　30時間以上 ２）研究に関する研修　15時間以上 ３）コミュニケーションに関する研修　15時間以上 ４）倫理に関する研修　15時間以上 ５）助産管理に関する研修　15時間以上
	ウィメンズヘルスケア能力	ウィメンズヘルス能力に関する研修　10時間以上
必須研修		・新生児蘇生法：Ａコース ・胎児心拍モニタリング（分娩監視装置）、フィジカルアセスメント５領域（妊娠期・脳神経・呼吸循環・代謝・新生児）、子宮収縮（輸液ポンプ含む）、助産記録、妊娠期から授乳期における栄養、周産期のメンタルヘルス、母体感染のリスクと対応
ステップアップ研修		・出血時の対応に関する研修（常位胎盤早期剥離）、周産期の倫理に関する研修、助産師および後輩教育に関連した研修 ・学術集会：５回以上の参加および１回以上の発表（共同研究可）

第10回（通算55回）公益社団法人全国助産師教育協議会 社員総会開催のお知らせ

担当理事
大阪大学大学院　**渡　邊　浩　子**

日程：2019年６月８日（土）・９日（日）
場所：大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻（吹田キャンパス）
住所：大阪府吹田市山田丘１－７

会場となる吹田キャンパスは1970年に開催された大阪万博／万博記念公園の近くに位置し、緑と竹林に囲まれた都会のオアシスです。万博公園内には今も大阪のシンボルとして「太陽の塔」のオブジェがそびえたっています。第９回の社員総会では助産師教育課程別のモデル・コアカリキュラム（案）が提示され、日本の助産師教育の在り方が検討されました。妊娠から出産・子育てまで継続的に母親や子ども、その家族を支える助産師には質の高い助産ケアを提供する能力が求められます。引き続き、助産師教育の在り方について会員の皆様と議論を重ねていきたいと考えております。観光スポットの多い大阪は日本全国から陸路・空路ともにアクセスも抜群です。安くて美味しいＢ級グルメもたくさんあり、皆様の胃袋を満足させてくれると思います。会員校の皆様の総会へのご出席を心よりお待ちしております。

第44回全国助産師教育協議会研修会のお知らせ

東京地区地区長
杏林大学　　**加　藤　千　晶**

全助協会員校のみなさまはじめ日頃から助産師教育にパワーと情熱を注いでいらっしゃるみなさま、こんにちは。今年度の全国研修会は先日の総会の折にもお伝えさせていただきましたが、平成31年２月９日（土）、10（日）の２日間、東京都三鷹の地、杏林大学で開催させていただきます。

全国研修会が東京地区担当と知ったのは、年が明けてしばらくたった３月ごろ。前地区長から「来年度の全国研修会は東京地区だそうです」と、地区研修会を終えてほっとしたところに伝えられました。断るわけにもいかず、かといってそんな急に・・・という思いが正直なところでした。ですが東京地区の会員校のみなさまの協力をもらい、何とか総会までに、日程を決め、会場に本学の臨床講堂が使用できるよう大学に申し入れ、内容の検討に入りました。

テーマは「妊娠期からの切れ目のない支援 ～助産師の果たすべき役割～ 」とし、東京地区のみなさまに知恵と情報をいただきました。「妊娠期からの切れ目のない支援」・・今、旬のテーマです。しかしどこでもよく耳にするテーマです。これをどのような内容で行えたら、全助協らしい研修会にできるか、東京地区会員校のみなさまと考えました。主な参加者が助産教員である研修会ということで、助産師の業務である「保健指導」をより効果的に行うためのコミュニケーション技術、さらには学生の教育をしていく上での教員としてのコミュニケーション技術、両方の効果を狙って「地域支援に必要なコミュニケーション」という題で青山学院大学の先生に参加型の講演をしていただく予定にしております。「言語的コミュニケーションが苦手な学生」が増えてきていると感じていたこともあり、その感覚は自分だけではなかったと確信し、ただどのような方法で教育をしていくことが良いのかみなさまも手探り状態なのではないかとも感じました。実際講演に来てくださる先生が、多彩な方法をお持ちであることを知っている学校からの推薦で、たっぷり時間を取って、講演を聞くだけではなく、何か身につけていただくために参加型で行うことにしました。

２日目午前中の講演は、「妊娠・出産地域包括支援モデル」の日本におけるパイオニア的な役割を果たしてくださっている東邦大学の福島富士子先生に「妊娠期からの切れ目のない支援」の総論的なお話をいただいて、現在の子育て支援の必要性、国・行政が推し進め、目指しているものを今一度確認しようと計画しています。福島先生は「ネウボラ」というフィンランドでの妊娠期からの地域での子育て支援の形を日本ですすめていくことを国・行政とともに計画・実行されていて、まさに今回の研修会の中心的役割を担ってくださると確信しています。

その後にシンポジウム「妊娠期からの切れ目ない支援」を計画しています。妊娠期から産褥・育児期まで助産外来・母乳外来という形で直接妊産褥婦・新生児と関わっている臨床の助産師をお呼びして、実際の関わりを中心に話題提供していただく予定です。また産褥期・新生児期に続く乳幼児期のお子さんのいる女性が一番よく利用する医療機関である小児科クリニックで、子育て相談や家庭訪問を実施している助産師にも来ていただき、ハイリスク妊産褥婦・新生児でなく、助産師のもともとの対象であるローリスクの母子の切れ目ない支援の実際を知り、母子の支援並びに学生教育に関して、私たち教員の知識のアップデイトを計ろうと考えています。もちろんハイリスクの方たちには福祉の場で活躍している方、臨床心理士といった助産師以外の職種で実際に子育て支援を行っている方をまねき、情報提供をしていただく予定です。ローリスクからハイリスクまで、妊娠期から子育て期まで、地域で子育て支援をしている方々からお話を伺い、地域での子育て支援の助産師としての役割を今一度検討する機会になればと思っています。

さらに今回の研修会は「アドバンス助産師（教員）」の更新要件としての「マタニティケア能力に関する研修」「専門的自律能力（コミュニケーションに関する研修）」に申請をし、2020年に迎える初のアドバンス助産師の更新要件に寄与できるようにとも考えております。

夏真っ盛りの今、実習に、講義にとお忙しい時期をお過ごしのことと存じます。まだ少し先の研修会日程ではありますが、研修会場近くには「ジブリの森」もあり、学習とリラックスを効率よく体験できる機会にしていただけたら嬉しいです。みなさまの参加をお待ちしています。

地域包括ケアから渇望する助産師の力

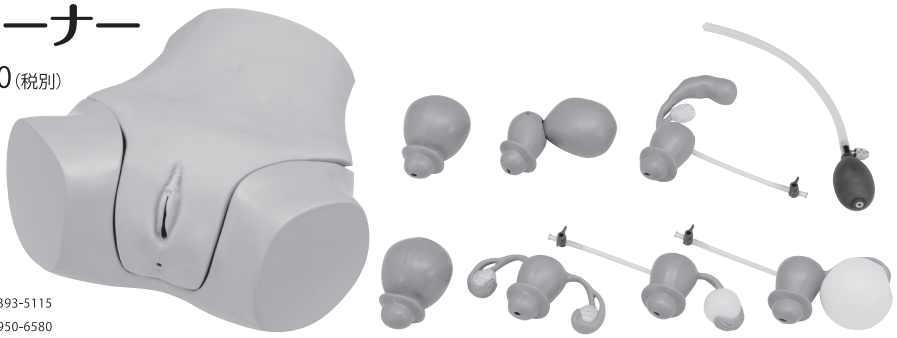
わこう助産院　院長
一般社団法人 わこう産前・産後ケアセンター 代表理事　**伊　東　優　子**

当助産院は、2011年開院当初から、産前・産後ケアの機能を持つ民営の助産院です。院内に併設した一般社団法人わこう産前・産後ケアセンター（以下ケアセンター）では行政サービスとして母子保健事業の委託事業、児童福祉事業として児童発達支援事業を行っています。１つの建物の中に、医療･行政･障害福祉・女性や母子のための地域の居場所の機能があり、市民に限らず、市民以外も利用可能な施設です。

特徴的な行政サービスとしては、2012年度より業務委託された埼玉県和光市の「こんにちは赤ちゃん訪問事業（新生児訪問と乳児全戸家庭訪問事業）」や2014年度から開始された厚生労働省の「妊娠・出産･包括支援モデル事業」での「わこう版ネウボラ」の取り組みです。2014年度から2017年度までの４年間「わこう版ネウボラ」での当ケアセンターの役割は、市内地域を４分割した一つの地域を担当する子育て世代包括支援センター（以下包括支援センター）と引き続き行っている市内全域から産後ショートステイ、産後デイケア、生後56日目までの新生児一時預かりなどの産後ケア事業です。包括支援センターでは、母子手帳交付から就学まで切れ目のない継続した相談・支援への取り組みを行っていました。

４年間の包括支援センターでの取り組みは、それまで関わりを持っていた助産院での出産や母乳外来などの限られた対象者だけではなく、行政サービスの地区担当者として広くたくさんの母親（家族）との関わる機会を得ました。また、母子手帳交付時より継続して妊娠期より子育て期まで継続して関わることができたことは、私自身がそれまでにとらえていた産後ケアへの考え方が根底から変わるような大変貴重な経験となり、また大きな学びを得たことは間違いありません。特に重要で効果的だと感じたことは、母子手帳交付時の専門職による面接です。その段階でスクリーニングすることにより妊娠中からどのように関わるかアセスメントできます。また、産前からの同一の担当者やチームが丁寧に親身になって母親だけではなく家族と切れ目ない関わり（備え）を持つことが何より大切だと実感しました。妊娠期より家族と共に様々な状況を想定し支援のプランを準備しておくと産後は状況にあった支援プランを実行するのみです。母親自身だけではなく家族も十分イメージや心の準備ができているためスムーズに対応ができます。その結果、想定していた状況より家族内の支援のみで対応でき、結果として産後ショートステイ等準備していた支援を利用しなくても自立できる方々が増えていきました。

状況が悪化した産後からの関わりからの支援開始より自立のスピードが速いこと。また、産後３か月から１年、児が２，３歳になってから精神的にバランスを崩す方もおり、出産直後や出産直後数週間のみ支援すればよいわけではなく、切れ目なく継続的

LIFE SIMULATION MODELS
婦人科診察トレーナー
LM-110　標準価格 ¥390,000(税別)
基礎的な婦人科診察の実技指導が
可能なモデルで、パップスメアの
トレーニングができます。

KOKEN 株式会社 高研
札幌営業所 TEL(011)221-5888／仙台営業所 TEL(022)393-5115
東京営業所 TEL(03)3816-3500／名古屋営業所 TEL(052)950-6580
大阪営業所 TEL(06)6304-4854／福岡営業所 TEL(092)263-5101
© 2018 KOKEN CO., LTD.
www.kokenmpc.co.jp

に見守ることの大切さを実感しました。

2012年に発足した第二次安倍政権が掲げた国の成長戦略として新三本の矢があります。その中の第二の矢の中には、出生率1.8を目指した「夢を紡ぐ子育て支援」として、2020年末までには、「少子化社会対策大綱」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」として「子育て世代包括支援センター」の全国展開を目指しています。

昨今、多くの市町村が子育て世代包括支援センターの整備に向けて地域性を生かしながら取り組む様子が伺えます。和光市のように官民一体となって取り組む市町村もあれば、従来ある機能を強化し子育て世代包括支援センター機能の充実を図る行う所も多いようです。いずれにしても従来は保健師中心であった行政の中での母子保健事業の中で、徐々に助産師が必要とされてきている状況にあると考えます。

包括支援センターは、母子（家族）が健全な家庭生活をおこなうために自立へと導く効果的な支援だと強く感じています。そして、今後は、地域、行政、医療の現場が一丸となって母子（家族）をサポートするシステムを構築することが求められてくると思います。

これら事業の支援者として助産師は最適任者だと思います。実際に和光市での母子保健ケアマネージャーは助産師や産科経験のある看護師が担当していて、妊娠期から子育て期への医学的知識やアドバイスのスキルが高く、母乳育児、新生児へ技術が豊富な存在です。分娩を取り扱うため多様な状況へ臨機応変に対応可能で、生殖という極めてデリケートな部分に携わり慣れているなど助産師ならではの良さが発揮できます。ただ、そのためには今までの助産師の知識や技術をさらにブラッシュアップしなければいけない部分もあります。医療職としての身体的、医学的なアセスメントし、ケアのスキルにくわえ、母子だけではなく家族全体をソーシャル的、経済的な面からもアセスメント、アプローチすることによって、自立へと導くサポートプランを作成する知識とスキルが必要だと考えます。また他職種、他機関、特に行政機関やその他関連する機関との連携も今後さらに重要となってくると考えます。

そして、今後は、助産教育課程の中でも妊娠期から切れ目のない地域包括ケアのスキルを意識した助産師教育の仕組みを確立することが必要だと考えます。

新版 助産師業務要覧 第3版 2018年版
福井トシ子 編

変化著しい教育・実践現場や社会情勢を鑑み、大幅改訂！ 読者の立場（学習者、実践者、管理者）ごとのニーズに特化した巻構成！

主に学生が対象
Ⅰ 基礎編
●B5判 308頁
定価（本体2,800円＋税）
助産業務の法的根拠・基本文書などを学ぶという、旧版Ⅰ巻の方向性・構成は踏襲しつつ、新しい知見を取り入れ、内容を一新。

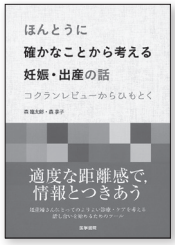
主に実践者が対象
Ⅱ 実践編
●B5判 360頁
定価（本体3,000円＋税）
旧版Ⅱ巻を構成から見直し、全面リニューアル。「助産師のコア・コンピテンシー」に基づく女性のライフサイクル全般を見すえた助産実践に重点を置いて編集。具体的業務を解説するとともに、幅広い視野を導入。

主に「アドバンス助産師」、中堅的・管理的立場が対象
Ⅲ アドバンス編
●B5判 224頁
定価（本体2,200円＋税）
第３版より新登場。より高度な助産実践を展開するために必要な、マネジメントの視点を紹介。

日本看護協会出版会
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-8-2 日本看護協会ビル4F
（営業部）TEL.03-5778-5783 FAX.03-5778-5786
http://www.jnapc.co.jp
【コールセンター（ご注文に関するお問い合わせ）TEL.0436-23-3271 FAX.0436-23-3272】

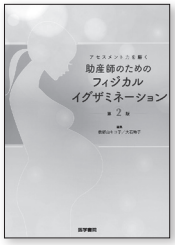
◆医学書院 関連書籍のご案内

◎「確かなこと」を共有し、話し合おう
ほんとうに確かなことから考える妊娠・出産の話
コクランレビューからひもとく
森 臨太郎・森 享子
医療や健康の分野で最も信頼性が高いと言われているコクランレビューの中から妊娠・出産にかかわるものを紹介。よりよい診療・ケアを考え、話し合いを始めるためのツールとなる1冊。



●A5 頁128 2018年 定価：本体2,200円＋税 [ISBN978-4-260-03542-2]

◎助産師に必要なフィジカルイグザミネーションを網羅した待望の改訂版！
アセスメント力を磨く
助産師のためのフィジカルイグザミネーション 第2版
編集 我部山キヨ子・大石時子
オールカラーで図版が見やすくなったほか、呼吸・循環器系、脳神経系、代謝系の異常に関する章を新設。各章でハイリスクについて言及し、正常・異常の判断に関わるアセスメントの解説も充実。



●B5 頁256 2018年 定価：本体3,600円＋税 [ISBN978-4-260-03548-4]

医学書院
〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 [WEBサイト] http://www.igaku-shoin.co.jp
[販売・PR部]TEL:03-3817-5650 FAX:03-3815-7804 E-mail:sd@igaku-shoin.co.jp

助産師教育に携わり、感じたこと、考えたこと

滋賀県立大学人間看護学部　成育看護学講座
母性・助産領域　助手　**堀　内　遥　子**

大学教員になり、あっという間に３年目を迎えました。大学に来た当初は、病院勤務との仕事内容の違いに戸惑うこともたくさんありましたが、講義と実習の毎日は臨床からは見えていなかったことばかりで、学びの連続でした。

講義科目１つをとっても、学生が何を学ぶのかという科目全体の学習目標が設定してあり、さらに実際の講義は、学習目標から何をどこまで伝えるのかということが綿密に計画された時間であるということを知りました。また、演習やディスカッションなど、学習目標に応じた効果的な教育方法を選択して活用することなど、講義を担当する教員の多彩な講義計画に、新しい発見と刺激を得る毎日です。そうすると、必然的に実習で体験することの意義が見えてきて、臨床時代に臨地実習指導者講習会で学んだ「実習は講義である」ということの意味が、やっと自分の中に落ちたような気がしました。そして、そのために実習施設の状況を十分に把握して学生配置を考えることや、臨床指導者と実習事前打ち合わせなど、教員として学生が学ぶ環境を整えることも全てが繋がっていることを実感することができました。

また、学生との関わりの中では、学生の考えていることを丁寧に聞くことの大切さと難しさを、演習や実習を通じて改めて感じました。学生に行動の根拠を尋ねてみると、正しい知識が基になって行動に結びついていたり、学生なりの工夫があったり、逆に「なんとなく」しか考えていなかったりすることもありました。そのため、結果として同じ行動を取っていたとしても、その行動に至った思考過程によって評価や助言は大きく変わってしまうことに気付きました。学生に考えを聞く際には、詰問にならないような尋ね方や、ポジティブフィードバックを意識することなどを心がけて、関わっていきたいと思っています。

目の前にいる学生は１人でも、その１人の学生が助産師になって将来関わる対象者のことを考えると、今私自身が伝えることに、とてつもなく大きな責任を感じます。それと同時に、自分が大切に思うことを、同じように大切に思ってくれる助産師を育てることができるという喜びもあります。卒業した教え子が実習先の病棟で働き、丁寧に産婦さんに声をかけている姿はとても頼もしく、また自分の励みにもなっています。

教育について学びを得る一方で、自分が臨床から離れていくことに不安を感じることも少なくありませんが、助産師を育てることも、また助産師の大きな役割です。自分自身が助産師教育に携わっている「助産師」であるという精神を大切にして、これからも自己研鑽に励んでいきたいと思います。

Willnext ウィルネクスト
約68%割引
年間掛金 6,200円
年会費100円と共済制度運営費370円を含む
「ケガ・感染・日常の賠償」（団体総合生活保険＋共済制度）は、
4つの補償を備えた
医療従事者のための補償制度です。
1 ご自身のケガ
2 日常生活における賠償責任
3 感染見舞金制度 インフルエンザ等による自宅待機期間にも見舞金
4 業務中の血液曝露等の職業感染事故に検査代相当の見舞金
保険期間 2018年3月31日午後4時～2019年3月31日午後4時まで（毎月中途加入を受け付けております）詳細につきましては下記取扱代理店までお問い合せください。
このご案内は、Willnext「ケガ・感染・日常の賠償」の概要をご紹介したものです。ご加入にあたってはパンフレットに記載の「重要事項説明」をよくお読みください。ご不明な点等がある場合は取扱代理店までお問い合わせください。
制度運営 一般社団法人日本看護学校協議会共済会
引受保険会社 東京海上日動火災保険株式会社（担当課）医療・福祉法人部 法人第一課
〒102-8014 東京都千代田区三番町6-4 ラ・メール三番町 TEL:03-3515-4143
資料請求・お問い合わせ先 取扱代理店
株式会社メディクプランニングオフィス 〒104-0033 東京都中央区新川2-22-6 SJIビル2F
0120-847861 9:00～17:00（土・日・祝日・年末年始を除く）
18-T02431（2018年6月）

公益社団法人　全国助産師教育協議会

平成29年度　第７回理事会議事次第

日　　時：平成29年12月10日（日）11：00～16：00
場　　所：東京都助産師会館　５階　会議室
出席理事：井村　真澄、大石　時子、久保田君枝、
　　永橋　美幸、福島　裕子、正岡　経子、
　　若井　和子、渡邊　典子、渡邊　浩子
欠席理事：村上　明美
出席監事：猿田　了子、武田江里子
出席幹事：森　　聖美、山﨑　圭子
書　　記：森　　聖美　　（敬称略）
理事総数：10名　　出席理事：９名
監事総数：２名　　出席監事：２名

議事次第
Ⅰ．会長挨拶

Ⅱ．審議事項
１）第６回理事会議事録案の承認について
２）平成29年度厚労省・文科省宛要望書提出について
３）会計関係
①平成30年度事業計画・予算案について
②立ち入り検査にて指導を受けた事項とその対応について
③平成29年度総会収支計算書
４）平成30年度スウェーデン・ノルウェー助産師　教育視察研修について
５）子宮がん検査地区研修会報告と今後の方針について
６）教育検討委員会
①教育検討委員会（推進班）大学院におけるモデル・コアカリキュラム検討会のまとめと今後の予定について
７）社会貢献委員会関係
①災害時に関する対応（案）
②第41回助産師関連団体連絡会開催計画（案）
８）正会員及び個人会員勧誘に向けた取り組みについて
９）将来構想委員会
10）広報委員会
①第32回日本助産学会プレコングレス３のタイムスケジュール・役割分担
②HP掲載原稿・チラシ
③平成29年度理事会報告
11）助産師国家試験プール問題公募事業に関する研修計画（案）について
12）第43回全国研修会関係
13）全国助産師教育協議会 CLoCMiP® レベルⅢ［教員］の更新要件の指定研修について（案）
14）正会員退会届・個人会員入会申込書について

Ⅲ．報告事項
１）社会貢献委員会関係
①「中・高校生向けリーフレット」集計結果
②「健やか親子21全国大会」参加報告
③平成29年度オレンジリボン運動参加校一覧
④全国助産師学生交流会・講演会ならびに学生ポスター発表の進捗状況
２）ニュースレター No.89進捗状況について

Ⅳ．その他
１）日本看護協会創立70周年記念式典参加
２）天使大学創立70周年記念式典欠席（祝い花･祝電）
３）事務員の勤務日について

平成29年度　第８回理事会議事次第

日　　時：平成30年１月８日（月祝）13：00～16：00
場　　所：日本赤十字看護大学　２階　205教室
出席理事：井村　真澄、大石　時子、久保田君枝、
　　永橋　美幸、正岡　経子、村上　明美、
　　若井　和子、渡邊　典子
欠席理事：福島　裕子、渡邊　浩子
出席監事：猿田　了子、武田　江里子
出席幹事：森　　聖美、山﨑　圭子
書　　記：森　　聖美　　（敬称略）
理事総数：10名　　出席理事：８名
監事総数：２名　　出席監事：２名

議事次第
Ⅰ．会長挨拶

Ⅱ．審議事項
１）第７回理事会議事録案の承認について
２）広報委員会
①第32回日本助産学会プレコングレス３のタイムスケジュール・役割分担
②助産学会プレコングレス３　抄録、略歴

Ⅲ．報告事項
１）平成29年度文科省・厚労省宛　要望書提出
２）e-learningのコンテンツ作成に関する報告について
３）子宮頸がん検査地区研修会報告について
４）大学院におけるモデル・コアカリキュラムについて
５）第32回日本助産学会学生交流会・学生ポスター発表　進捗状況
６）将来構想委員会
７）CLoCMiP® のWeb掲載更新要件について

Ⅳ．その他

平成29年度　第９回理事会議事次第

日　　時：平成30年３月11日（日）11：00～16：00
場　　所：東京都助産師会館　５階　会議室
出席理事：井村　真澄、大石　時子、久保田君枝、
　　永橋　美幸、福島　裕子、正岡　経子、
　　村上　明美、若井　和子、渡邊　典子、
　　渡邊　浩子
出席監事：猿田　了子、武田江里子
出席幹事：森　　聖美
欠席幹事：山﨑　圭子
書　　記：森　　聖美　　（敬称略）
理事総数：10名　　出席理事：10名
監事総数：２名　　出席監事：２名

Ⅰ．会長挨拶

Ⅱ．審議事項
１）地区長会・第８回理事会議事録案の承認について
２）【パブコメ】平成30年度事業計画（案）について
３）平成30年度収支予算書（案）について
４）平成30年度事業計画・予算案
・全国研修会決算報告について
５）腟鏡診及び子宮頸がん検査の教育検討WG案
６）教育検討委員会（推進班）
・大学院におけるモデル・コアカリキュラム（案）

について
7）社会貢献委員会
①「助産師になる」冊子の引用について
②助産師団体連絡会の継続について
8）組織強化委員会
①全国助産師教育協議会活動マップ
②全国助産師教育協議会 調査等活動一覧表
9）アドバンス助産師「教員」更新要件作業のメンバー選定
10）平成30年度総会プログラム（案）
11）正会員入会・退会について
12）個人会員入会について
13）全助協50周年記念誌の処分について

Ⅲ．報告事項
1）子宮頸がん検査地区研修会報告
2）全国研修会評価・アンケート
3）教育検討委員会（評価班）;日本助産学会にて発表済み
4）社会貢献委員会
①全国助産師学生交流会・講演会並びに学生ポスター発表
②第41回助産師団体連絡会
③第17回健やか親子21推進協議会総会
④中高年向けリーフレットに関する問合せへの対応について
5）プレコングレス３の報告
6）資格・専門能力委員会
①第101回助産師国家試験検討結果
②平成29年度助産師国家試験問題の検討作業実施報告
③近畿地区スメア研修会報告書
④平成30年度　近畿地区ブロック助産師学生交流会
7）謝金に関する覚書について
8）事務局　研修センター事務のPC契約について
9）研修センター平成29年度予算における誤記と修正について

Ⅳ．その他
1）東京都助産師会館85周年記念式典参加（ご祝儀）
2）賛助会員；日本家族計画協会 元会長 近 泰男様を偲ぶ会欠席の為弔電
3）日本評価機構時期役員・評議員推薦について
4）第４回「山上の光賞」候補者募集のご案内について
5）事務員　３か月試用期間終了に伴い３月から正式に雇用

平成30年度　第１回理事会議事次第

日　　時：平成30年４月15日（日）11：00～16：00
場　　所：東京助産師会館　５階　会議室
出席理事：井村　真澄、大石　時子、久保田君枝、
永橋　美幸、福島　裕子、正岡　経子、
村上　明美、若井　和子、渡邊　典子、
渡邊　浩子
出席監事：猿田　了子、武田江里子
出席幹事：森　　聖美、山﨑　圭子
書　　記：森　　聖美　　（敬称略）
理事総数：10名　　出席理事：10名
監事総数：２名　　出席監事：２名

議事次第
Ⅰ．会長挨拶

Ⅱ．審議事項
1）平成30年度修正予算書について
2）アドバンス更新研修承認手続きについて
3）社会検討委員会
・都内近県助産師養成機関教務主任会議における助産師教育意見交換の概要
4）広報委員会
①ニュースレター No.90発刊について（案）
②HP構成について
5）平成30年度総会プログラム（案）
6）平成31年度社員総会担当者について
7）平成30年度総会会場へのアクセスについて
8）正会員入会について
9）個人会員入会について

Ⅲ．報告事項
1）謝金に関する覚書について
2）国際関連活動委員会
①腟鏡診及び子宮頸がん検査の教育案作成WG
②全国研修会報告書
3）教育検討委員会
4）社会貢献委員会
・都内近県助産師養成機関教務主任会議における助産師教育意見交換の概要
5）組織強化委員会
①全国助産師教育協議会活動マップ
②ビジョン2015における事業計画
6）現行教育プロジェクト進捗状況
7）平成30年度　理事会・地区長会日程表

Ⅳ．その他
1）ヘルシー・ソサエティ賞授賞式参加
2）自民党看護問題対策議員連盟平成30年度総会へ参加
3）平成29年度厚生労働省看護職員確保対策特別事業「院内助産・助産師外来ガイドライン2018」送付について

平成30年度　第２回理事会議事次第

日　　時：平成30年５月13日（日）11：00～16：00
場　　所：東京助産師会館　５階　会議室
出席理事：井村　真澄、大石　時子、久保田君枝、
永橋　美幸、福島　裕子、正岡　経子、
村上　明美、若井　和子、渡邊　典子、
渡邊　浩子
出席監事：猿田　了子、武田江里子
出席幹事：森　　聖美、山﨑　圭子
書　　記：森　　聖美　　（敬称略）
理事総数：10名　　出席理事：10名
監事総数：２名　　出席監事：２名

議事次第
Ⅰ．会長挨拶

Ⅱ．審議事項
1）平成30年度第２回理事会議事録（案）承認について
2）平成29年度事業報告書承認について
3）平成29年度決算報告書承認について
4）平成30年度修正予算書承認について
5）社員総会開催について
6）謝金に関する覚書について
7）社会貢献委員会
・助産師団体連絡会継続について
8）広報委員会
・ホームページの構成について
9）助産師教育コアカリ合同プロジェクト
10）第10回社員総会日程・会場のお知らせ
11）正会員・賛助会員・個人会員入会申込について

Ⅲ．報告事項
1）教育検討委員会

①（推進班）；合同会議の報告
②（評価班）；平成27年度、28年度卒業（修了）時の到達度自己評価に関する実態　調査結果のホームページ掲載について

2）　組織強化委員会
①平成30年度全国助産師教育協議会活動マップ
②ビジョン2015における事業計画（2018年度）

3）　広報委員会
・ニュースレター No.90発刊について

4）国家試験問題分析結果報告書追加報告について

5）学研メディカルオンデマンド研修作成スケジュールについて

Ⅳ．その他

平成30年度　第３回理事会議事次第

日　　時：平成30年６月８日（金）15：00～17：00
場　　所：高崎ワシントンホテル　11階（菊の間）
出席理事：井村　真澄、大石　時子、久保田君枝、永橋　美幸、福島　裕子、正岡　経子、村上　明美、若井　和子、渡邊　典子、渡邊　浩子
出席監事：猿田　了子、武田江里子
出席幹事：森　　聖美、山﨑　圭子
書　　記：森　　聖美　　（敬称略）
理事総数：10名　　出席理事：10名
監事総数：２名　　出席監事：２名

議事次第

Ⅰ．会長挨拶

Ⅱ．審議事項
1）平成30年度第２回理事会議事録（案）承認について
2）社員総会運営について
3）会計関係
4）「現行の助産師教育におけるコアカリキュラム2018（案）」「大学院における助産師教育のモデル・コアカリキュラム2018（案）」
5）教員ラダー改訂作業について
6）アドバンス助産師「教員」更新要件の研修について
7）研修事業の事務管理・他
8）個人会員入会の承認

Ⅲ．報告事項
1）平成29年度助産師教育研修研究センター事業報告
2）助産師団体連絡会の継続について
3）組織強化委員会
・平成30年度全国助産師教育協議会活動マップ
4）資格・専門能力委員会
・助産師国家試験問題プール問題作成・登録に関する研修会チラシ

Ⅳ．その他
・青森県立保健大学開学20周年記念式典欠席の為、祝電を送る

お見舞い：被災された皆様・会員校の皆様
（北海道胆振東部地震、台風21号、西日本豪雨、大阪北部地震）

日本列島に次々に起こる広域的災害において、亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、いまだ著しく困難な状況にある被災された方々に対し、心よりお見舞い申し上げます。

被災地の皆さまのライフラインや生活基盤の速やかな復旧が叶い、１日も早く日常を取り戻されることを祈っております。

本会といたしましても、被災状況を把握し、支援活動を行ってまいります。

会員校の皆様におかれましても、助産学生の被災状況の確認や支援など活動なさっていることと思います。 安全にご留意されることを願っております。

平成30年９月10日
公益社団法人全国助産師教育協議会
会長　井村真澄

編集後記

今年の夏は、例年より早い梅雨明けとともに連日の酷暑、さらには、大阪北部地震ならびに西日本を中心とする豪雨災害、台風21号、北海道胆振東部地震と度重なる自然災害に心が痛みます。

北海道が最も強い揺れに襲われた９月６日、地震発生直後に新しい命が誕生したとのニュースには、母親と赤ちゃんを守るために戦った医師と助産師の姿が映し出されていました。いつでも、どのような状況でも対応できる助産師の必要性を痛感いたします。

このような状況の中、ご執筆をいただきました先生方をはじめ関係者の皆様のご協力のもと、本号を発刊することができましたこと、心より感謝申し上げます。広報委員会では９月よりマンスリーメールの配信を始めました。今後も皆様にとって有益な情報をリアルタイムにお届けできるよう努めてまいりたいと思います。

助産実習にご尽力の毎日と存じますが、皆様におかれましては、くれぐれもご自愛のほどお祈りいたします。

井田　歩美　（関西福祉大学）
古川　洋子　（滋賀県立大学）
小嶋理恵子　（愛媛県立医療技術大学）
鈴木　康江　（鳥取大学）
若井　和子　（福山平成大学）

●助産師教育ニュースレター　第90号
2018年10月１日
発行人　公益社団法人　全国助産師教育協議会事務局
Japan Society of Midwifery Education（J.S.M.E）
会長　井村　真澄
〒112-0013
東京都文京区音羽１-19-18　東京都助産師会館２階
電話・FAX　０３－３９４４－２９１１
（火・金　事務局在室）
http://www.zenjomid.org/
E-mail zenjomid.1965@car.ocn.ne.jp
全国助産師教育協議会ＱＲコード
http://www.zenjomid.org/
バーコードリーダーで読み取ってください